

身装画像データベース「近代日本の身装文化」の公開と運用 —公開用ウェブインタフェースと研究者の参加を促す編集環境の実現—

丸川 雄三 (国立民族学博物館 先端人類科学研究部)

明治から昭和期(1868~1945年)における日本人の身体と装い(身装)に関する画像を対象としたデータベース(身装画像データベース)の一般公開を目的として、ウェブサイト「近代日本の身装文化」を開発した。データベースの特徴は、資料出典などの基本情報に加え、画像の中に現れているモチーフに関する記述が充実している点にある。また画像には専門家による説明文が付けられており、背景知識を前提としない一般の利用者や初学者にとって理解がしやすい。これらの特徴を活かした検索および閲覧のためのインタフェースと、研究者が直接参加できる編集環境を実現した。

Publishing of Image Databases of Clothes and Clothing Culture from 1868 to 1945 in Japan

Yuzo Marukawa (National Museum of Ethnology)

To publish the image database of clothes and clothing culture from 1868 to 1945 in Japan, the website “Image Digital Archive of Fashion, Dress and Behavior from 1868 to 1945 in Japan” has been developed. This image digital archive exhibits the history of acculturation of Japanese clothing life through 10,000 pieces of images and photos. It is useful for the study of the clothing culture in Japan.

1. はじめに

明治維新以降、約80年間における日本人の「身装—身体と装い」に関する文化変容の実態については、十分に解明されていない点が多い。本研究では、明治から昭和期(1868~1945年)における身装に関する画像(身装画像)を対象に、そのデータベース化と発信に取り組んでいる。既に全文検索機能の研究と開発を行い、身装画像データベースの検索バックエンドシステムおよび、横断的連想検索システムを実現している[1]。

本研究では、連想検索エンジン GETAssoc[2]により構築したこれらの検索バックエンドを利用し、インターネット上に一般公開するためのウェブインタフェースを開発した。また研究者による身装画像へのフィードバックや登録情報の直接編集が可能な書き込み機能とユーザ管理機能を実装した。本論では身装画像データベースの特徴を説明し、今回開発した公開用インタフェースとの関連について論じる。また書き込み機能について説明し、その役割と可能性について述べる。

2. 身装画像データベース

身装画像データベースには、近代日本の身装文化に関する画像15,000件が登録されている。これらの身装画像は、新聞挿絵や絵葉書、写真などから構成されており、それぞれに詳しい管理情報と解説が付与されている。項目名およびデータの一例を表1に挙げる。

ID No.	A02-005
出典資料	東京朝日新聞
発行年月日	1902(明治35)年2月8日号 7面
画家・撮影者	右田年英(1863-1925)
タイトル	
小説のタイトル	新年梅(36)
作者	渡辺龍亨(1864-1926)
身装画像コード	D7re: [令嬢モデル]; D2sim: [島田; 高島田]; D4ge: [下女; 下男; 召使い]; D2ic: [銀杏返し]; D3ob: [帯の締め方; 帯の位置]; Vtas: [襟]
年代	20世紀初め; 1902(明治35)年
国名	日本
キーワード	お嬢様; 文金高島田; 富士額; 狐目; おちよほ口; お太鼓結び; 襟掛け
特定地域	
男女別	女性
セット画像	
著作権	
メモ	

表1 管理項目名一覧とデータの一例

学術データベースとしての品質と信頼性を保持するためには、出典資料名と発行年月日が重要である。身装画像の出典は様々であるが、このうち最も多くを占めるのは新聞である。中でも新聞小説の挿絵は、当時の人びとの生活場面での装いを見ることが出来る貴重なものであり、身装画像にも挿絵由来の画像が多い。そのため項目としての題名には、通常の画題を入れる「タイトル」の

他に「小説のタイトル」の計2種類が用意されている。小説のタイトルは、その挿絵が掲載された新聞小説の名称である。画像そのものに題名やテーマが明記されている場合は、「タイトル」として保持する。また新聞挿絵の場合は、挿絵画家の名前と生没年の他に小説の著者が存在する。そこで制作者情報として「画家・撮影者」と「作者」の情報を管理するための項目が、それぞれ用意されている。

出典情報の次に重要な項目は、「身装画像コード」と「キーワード」である。いずれも画像に描写されている服飾、人物、情景などに関する記述であり、本データベースを特徴づける項目である。

身装画像コードは、身装文化を網羅する統制された概念コードと、概念を説明する具体例として付けられた数個の単語やフレーズから構成される。概念コードの数は200近くにのぼる。一方のキーワードは、身装画像コードとは独立に、その画像に最もふさわしい単語やフレーズが付与されている。

この二つの項目の性質は、いずれもモチーフを記述している点では一致している。しかし統制語による身装画像コードは、網羅性と客観性を重視し、画像に現れているモチーフ全てを概念的に整理分析することを目的に整備されているため、ひとつの画像の中で、装いの具体的な名称を表現するには十分ではないことがある。それに対してキーワードは、その画像に表出しているモチーフを自由形式のテキストで的確に表現することができる。身装画像コードの説明を言い換える同義語なども、キーワードとして管理している。

以上が主な管理情報である。これらに加えて本データベースには文章による説明文（コメント）が付けられている。コメントは身装文化の研究者による解説情報であり、適切な専門用語によって、画像に現れる身装とその時代背景などが丁寧に記述されている。初学者などの前提知識を持たない利用者であっても、コメントを読むことによって、画像に現れるモチーフを読み解くことができ、専門用語などの新しい知識を同時に得ることができる。

3. ウェブサイト「近代日本の身装文化」

身装画像データベースの管理情報における特徴は次の3点である。すなわち、(1) 近代日本の身装文化研究に関する学術データベースであること、(2) 身装画像コードなどの身装文化に関する専門用語が統制語として付与されていること、(3) キーワードやコメントなどのテキスト情報が豊富であること、である。精査された専門用語に加えて、身装文化を理解するための背景にまで踏み込んだ説明文が付与されている点に、一研究分野のための資料整理という目的を超えた価値が認められる。

本研究では、これらの特徴をふまえ、公開用ウ

ェブサイト「近代日本の身装文化」を開発した。ウェブサイトの名称は、本サイトが近代日本に時期を絞った身装画像を発信対象としていることを示しており、データベースの第一の特徴に対応している。本サイトは、身装画像データベースへのアクセスとして、大きく二つのカテゴリを設けている。「一覧から探す」と、「項目から探す—画像データベース検索」である(図1)。



図1「近代日本の身装文化」トップページ

「一覧から探す」は、身装画像を「身装画像コード」、「年代」、「制作者」の一覧から探すことができるディレクトリ型の入り口である。これらは全て統制語として管理されている項目を検索対象としており、利用者はキーワード等を入力することなく、一覧に示された検索語を選ぶだけで対応する身装画像にアクセスすることができるよう構成されている。身装画像データベースの第二の特徴を活かしたインタフェースとなっている。

「項目から探す」は、身装画像の全ての管理項目およびコメントを対象とした検索への入り口である。項目指定を行わないテキスト自由入力による「全項目」をトップに配置し、検索バックエンドの全文検索機能を前提としたテキスト検索を実現している。豊富なテキストデータを備えているという、身装画像データベースの第三の特徴を活かしたインタフェースとなっている。

4. 一覧から探す—身装画像への三つの入り口

身装画像データベースには、統制語による項目と、テキスト（自由文）による項目がある。統制語の代表が「身装画像コード」であり、続いて画家・作家などの制作者情報が対応する。さらに表現と選択肢が限定されている年代情報も統制語のひとつと見ることができる。もう一方のテキストによる項目の代表は、研究者による説明文である「コメント」である。さらに統制語を補完するため比較的自由的な表現が可能な「キーワード」がそれに続いている。

「身装画像を一覧から探す」においては、統制語による項目を一覧から選ぶことができるよう、「身装画像コード」、「年代」、「制作者」への三つの切り口を用意している。このうち「身装画像コード」は、10の大分類と、400の各小分類からなる概念コードの一覧である。全て表示すると使い勝手を大きく損なう可能性があるため、大分類ごとに折りたたみ展開できる機能と、コード選択後に一覧表全体を非表示にする機能を用意している。

図2は身装画像コード表の一覧表示例である。身装画像コードの大分類のうち「P. 衣服一般」を展開したところであり、12の小分類が表示されている。利用者は分類名を選択（クリック）することによって、その分類が付与されている全ての身装画像にアクセスすることができる。また小分類の選択によって検索結果が0件となることのないよう、小分類の表示にあたっては、公開対象となる身装画像が1件以上存在するコードのみを掲出するように配慮している。



図2 身装画像コード一覧

「年代」および「制作者」も、同様に折り畳み式の一覧表を備えたインタフェースを採択している。検索語の選択をしやすくするために、制作者は生年を基準とした年代別に折りたためるようにした。また人物名が分かっている利用者向けに、キーボードの入力による簡易人名検索も用意している。

5. 項目から探す—身装画像データベース検索

身装画像には、タイトルなどの基本情報の他に、研究者による文章形式のコメントが付与されている。コメントは200字程度の長さでまとめられており、身装画像そのものの解説や関連する時代背景などが適切な専門用語によって語られている。そこで「項目から探す—画像データベース検索」においては、これらの豊富な記述内容にすばやくアクセスできるように、検索インタフェースの一番上に全文検索のための「全項目」という検索窓を設けている（図3）。



図3 「身装画像を項目から探す」検索パネル

「全項目」を対象とした検索を実装することにより、データベースへのアクセスにおける検索の網羅性（再現性）を担保することができるが、さらに実際の利用場面においては、検索結果の絞り込みなどにより、結果の適合性を高めることが重要である。

そこで検索パネルでは、タイトル、コメント、キーワードに加えて、「身装画像コード」、「年代」、「制作者」を絞り込み条件として設定できるようにした。そのためこのうち「身装画像コード」と「年代」については、「一覧から探す」の機能を一部継承し、一覧から検索語を複数選べるプルダウン式のインタフェースを実装している（図4）。



図4 プルダウンによる検索条件指定

6. 検索結果一覧と身装画像の詳細表示

検索結果の一覧表示機能について説明する。図5は「項目から探す」の検索パネルから「髪型」で検索した結果である。全文検索により、条件の一致した身装画像の一覧が表示されており、画像のサムネールを選択することで、それぞれの身装画像の詳細を閲覧することができる。画像が主体のデータベースであることから、一覧の表示レイアウトも二種類用意した。基本項目を確認できるリスト形式と、画像中心のマトリックス形式である。画面上部のタブにより、切り替えが可能である。なお、切り替え処理はブラウザ側で行うよう工夫されており、検索バックエンドでの再検索は発生しない。



図5 「髪型」の検索結果一覧

次に身装画像の詳細表示について説明する。結果一覧から身装画像をクリックすることで、その画像の詳細画面が表示され、内容を確認することができる。詳細画面においても検索語がハイライトされるため、利用者は検索結果の根拠を画面で確認しながら記述を読み進めることが可能である。特にテキスト入力による検索では、コメントを含む全ての記述から該当部分をピックアップできるため、内容の解読に威力を発揮する。

例えば「髪型」のような一般的な単語は、統制語である身装画像コードやキーワードには記載されていない。しかしコメントは文章による記述が行われているため、このような一般的な単語も併せて記述されていることが多い。

図6に一例を挙げる。コメント文中に「髪型」がハイライトされているが、さらに身装画像コードの記載を確認することにより、画面上に見られる髪形が「高島田」であることが同時に読み取れる。

全文検索とハイライト機能の組み合わせにより、統制語と自由文の特徴をそれぞれ活かした情報探索が可能となっている。

また身装画像に新聞挿絵が多いことに配慮し、文字部分を含めた新聞記事の全体画像とともに、挿絵部分のみをトリミングした画像を、タブの切り替えで閲覧できるインターフェースを用意した。またそれぞれの画像は拡大表示も可能であり、利用者の閲覧環境にあわせたサイズで画像の詳細を確認することができるよう配慮している。さらに検索結果を一覧に戻らずに確認できるよう、次の画像に進む、あるいは前の画像に戻るためのボタンを備えている。



図6 検索例 (東京朝日新聞 1902 (明治 35) 年 2月 8日号 7面、右田年英 (1863-1925) 筆)

7. 研究者の直接参加が可能なユーザ管理機能

研究の進展に伴い、データベースの記述にも更新が必要となる。多くの場合、データの更新はバックエンドシステムを介して行うため、何段階かの編集プロセスとともにシステム管理者の手を経るのが通例である。しかしこのような方法では、更新に手間と時間がかかるため、本来はデジタルの利点であったはずの更新の容易さが大幅に損

なわれてしまう。そこで「近代日本の身装文化」においては、公開用ウェブサイトそのものにユーザ管理機能を備え、研究者がそれぞれ身装画像のデータに直接フィードバックを行うための機能とインタフェースを実装した（図7）。

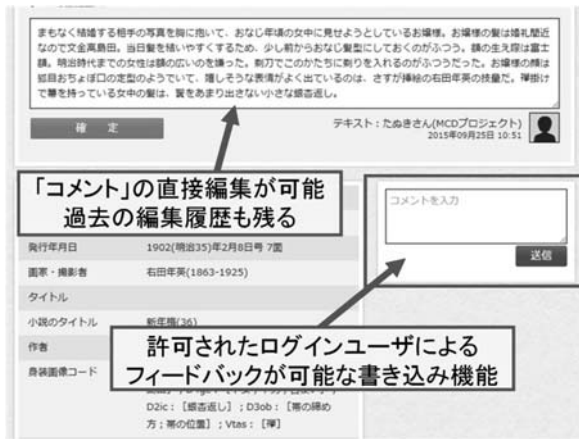


図7 書き込み機能と「コメント」の直接編集

登録を済ませた身装文化の研究者は、自身のアカウントによりサイトにログインすることができる。ログインすると、身装画像の詳細画面に表示される書き込み用の機能にアクセスできるようになる。例えばデータベースの記述に疑問や修正点がある場合は、ここに書き込みを行うことで、データベースの編集権者である研究代表者に一考を促すことができる。また他の研究者とともにオンラインでのやり取りも可能である。

さらにコメントの編集権限を持つ研究者は、オンラインで直接その記述を更新することもできる。他の研究者の書き込みによるフィードバックを見ながら、その場で「コメント」を修正するといった使い方が可能である。加えてこれまでの編集履歴を、他の研究者が確認することもできるよう配慮している。

8. 参考ノートの公開

「近代日本の身装文化」では、身装画像データベースとともに「参考ノート」を公開する。参考ノートは、身装文化研究の第一人者である大丸弘氏によるエッセイ形式の文章であり、身装に関するテーマごとにその周辺が、読みやすい語り口で生き生きと描写されている。身装画像のコメントと並んで、身装文化を理解する上で大いに役立つものである。

図8は公開用インタフェースによる記事（テーマ）一覧である。参考ノートの記事は10種類のカテゴリに分けられており、例えば「美容」というカテゴリには、「化粧」や「消える日本髪」といった記事が入っていることがわかる。また、全文検索によって、記事をキーワードからハイライト付きで探すこともできる。

さらに参考ノートの読みものとしての性質を活かすため、記事本文のレイアウト修正が可能な編集環境も用意している。具体的には記事テキストをレイアウト込みのHTML形式で保存管理している。記事は現在のところテキストのみであるが、今後、内容に即した身装画像の挿入や、関連情報へのリンクが整備される見込みがある。そのような要望に対し、管理用のウェブサイトから直接HTMLを編集することで、記事中への関連リンクや画像の貼り込みを自由に行うことができるよう配慮している。



図8「参考ノート」テーマ一覧

9. おわりに

身装画像データベースの公開を目的に、ウェブサイト「近代日本の身装文化」および、研究者参加型の編集支援環境を実現した。身装画像データベースは身装文化の研究基盤となり得るものであり、公開後の運用、特に情報の更新を含む編集作業に十分な手をかけることが将来にわたって求められる。本ウェブサイトの公開により、情報の共有化のみならず、研究者が直接情報を交換・更新可能な運用基盤化を果たすことが期待できる。

身装画像データベースは、資料出典などの基本情報に加えて、身装に関するモチーフへの記述が充実している。それぞれの画像には専門家による説明文が付けられており、背景知識を前提としない一般の利用者や初学者にとってたいへん理解がしやすいものである。開発したウェブインタフェースは、これらの特徴を十分に活かした検索と閲覧のための機能を備えており、データベースの価値を広く一般の利用者に還元し共有することが期待できる。

また研究者による書き込みやコメントの修正などを可能にする研究者参加型の直接編集機能は、学術データベースと研究者コミュニティとの連携を意図したものであり、身装画像データベースの信頼性と継続性を支え、その価値を向上させる基盤となると思われる。

今後は、国立民族学博物館において実運用を進めるとともに、研究者参加機能をさらに使いやすいものにするための研究を続ける予定である。国立民族学博物館（民博）では、文化研究資源の双方向的な情報基盤を目指す「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」[3]を進めている。研究者参加型機能は、同プロジェクトにおいても研究開発を進めており、本研究の成果は民博の情報基盤システムへの応用が期待されている。

謝辞

本研究は、「JSPS 科研費基盤 B 課題番号 24300099（平成 24 年度～平成 26 年度）「近代日本の身装画像デジタルアーカイブの構築—文化変容に視点を据えて」（代表：高橋晴子）」の助成を受けたものです。またウェブインタフェース制作を株式会社シーリオの中原祐輔氏が、検索バックエンド制作を株式会社システムモーメントの花輪和孝氏がそれぞれ担当しました。本研究の関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 丸川雄三：身装画像データベース「近代日本の身装文化」の構築, じんもんこん 2013 論文集, Vol.2013, No.4, pp.233-238 (2013).
- 2) 連想検索エンジン GETAssoc, <http://getassoc.cs.nii.ac.jp/> (2015-11-12 閲覧).
- 3) 岸上伸啓：フォーラム型情報ミュージアムの構築—国立民族学博物館における新たな展開, 民博通信, No.146, pp.2-7 (2014).